

(続報2) 上海における都市封鎖による物流への影響

ロックダウン(都市封鎖)が事実上解除された今月1日以降、上海の海運と空運による貨物取扱量は上向き、6月7日時点で「平常時の9割以上まで回復した」と上海市交通委員会が発表しています。本号ではロックダウンにより混乱が見られた上海の物流の現状についてお知らせします。

1. 上海港の滞船状況・空運の状況

- 英国の船価鑑定大手ベッセルズ・バリュー(VV)のまとめによると、6月1日のロックダウン解除以降、上海港の混雑はほぼ正常化しつつあります。同港でのコンテナ船の平均沖待ち時間は31時間で、4月下旬の平均69時間から大きく改善しています。過去3年間の平均と比較すると依然として4時間長い状況ですが、混雑状況は正常化しつつあると言えるでしょう。また、タンカーの混雑状況は通常の範囲内に回復しており18時間程度、バルカーに至っては、ここ3年平均よりも短い21時間にまで減少しているとのことです。
- 空運では、浦東国際空港の貨物・郵便取扱便数が端午節の連休期間(6月3~5日)に1日当たり平均200便以上となり、新型コロナウイルスがまん延する以前の水準まで戻ってきております。

2. 日系企業への影響

- 一方、ロックダウン解除直前の5月末に実施した上海日本商工クラブのアンケート調査によれば、「上海に関連する国内物流・国際物流とも必要量の半分しか手配できていない」と回答した企業が5割以上を占めています。トラック台数の回復や、市内倉庫の部分再開、高速道路の検問減少などにより物流は回復傾向にありますが、「正常化には程遠い」といった声も多く聞かれています。
- ロックダウン前と同様の生産・業務が可能な時期を7~8月とした企業が5割、2022年の業績予想については9割近くの企業が悪化を見込んでいるとのことです。
- 物流の回復を妨げる要因としては、地域によってばらつきがあること、突然の地区閉鎖などの不安定さが残っていることに加えて、物流費が高騰していることも挙げられます。物流費が以前の1.5~4倍かかっているという回答も見られました。

3. 日頃の備え

- 上海港は世界最大の国際貿易港であり、コンテナ輸送量において世界1位です。今回ロックダウンの長期化で、船の渋滞や運送の遅延、運賃上昇など物流に深刻な影響を及ぼしました。代替ルートの確保に苦慮した企業も多く、上記の調査でも一部企業では必要な物流量が全く手配できていないという状況でした。
- 上海隔離地域外での感染が広がっているという報道もあり、再び同様の状況が発生する可能性もあります。これを機会に代替輸送ルートについても検討をお勧めいたします。

●



【参考ウェブサイト】

NNA (<https://www.nnajp/>)

日本海事新聞 (<https://www.jmd.co.jp>)

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。

編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、

これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



マリンピックスバックナンバー